



きょうこう せい いの
 教皇レオ 14世「アレルヤの祈り」でのことば（2026年5月24日）

親愛なる兄弟姉妹の皆様。こんにちは。

今日の聖霊降臨の祭日に、わたしたちは聖霊の賜物について観想するように招かれます。初代教会に豊かに注がれた聖霊のたまものは、今日も新たに、あらゆる生活状況の中で同伴して下さる光と力として教会の成員に与えられます。

今日の典礼によって示された、〈戸を開ける霊〉という、聖霊のイメージについて考えてみたいと思います。実際、福音はわたしたちにこう述べます。「弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた」（ヨハ20・19）。同時に使徒言行録はわたしたちに語ります。聖霊は激しい風のようにやって来て（使2・2参照）、戸を開き、弟子たちに、出かけて行って、復活したキリストに関する福音をのべ伝えるように促したと。

わたしたちは今日もこう自問することができます。〈聖霊はどのような扉を開くのだろうか〉と。

第一の扉は、神ご自身の扉です。この扉は、わたしたちの心を開いて、イエス・キリストのうちに啓示された神の神秘へとわたしたちを導き入れます。神は聖霊のたまものによって、わたしたちに真の信仰を与え、聖書の意味を理解させ、ご自身が近くにいることを悟らせ、わたしたちがご自身のいのちそのものにあずかることを可能にします。聖霊は、わたしたちが神を個人的に体験し、単におきてを守るだけでなく、イエスのうちに神と出会い、自らのうちに神を認識し、日常生活の中で神の現存のしるしを見いだすことができるための助けとなります。

第二の扉は、上の部屋の扉、すなわち教会の扉です。教会は、聖霊の炎がなければ、恐れにとらわれ、世界の課題に対しておびえ、自分のうちに閉じこもり、それゆえ、変化する時代と対話することもできないままです。聖霊は教会の扉を開いて、神と他者と希望と生きる喜びに扉を閉ざした人も含めて、すべての人を受け入れ、もてなすことができるようにして下さいます。教皇フランシスコが思い起こさせたとおり、わたしたちは、「祝福



Leo PP. XIV

し、励ます教会、〔……〕すべての人に扉を開く教会」（「世界代表司教会議通常総会開会ミサ説教（2023年10月4日）」）となるように招かれています。

最後に、聖霊はわたしたちの心の扉を開き、抵抗と利己心と不信と偏見に打ち勝つことができる助けとなり、わたしたちが神の子として、また互いに兄弟として生きることができるようにしてください。主の霊があるところには、個人、グループ、地上の諸民族の間に兄弟愛が生まれ、皆が、一致をもたらし、多様性を調和する、一つの愛のことばを語ります。

兄弟姉妹の皆様。現代においても、とくにこの聖霊降臨の祭日にあたり、わたしたちは、閉ざされたままのすべての戸を開いてくださるよう聖霊に祈り求めなければなりません。わたしたちは、わたしたちを愛してくださる父として神を再発見し、すべての人がくつろげる場所としての教会を築き、すべての民の間で平和が支配する、兄弟愛に満ちた世界を成長させなければなりません。

最初の弟子たちと同じように、わたしたちも、聖霊の住まいであり、教会の母であるおとめマリアの執り成しに身をゆだねます。

（カトリック中央協議会Hpより）

が 6月 は イエスの み 心 の 月



イエスのみ心は全人類に対する神の愛の象徴としてイエスの心臓を表し、その信心はイエスのみ心に表される神の愛を思い起こし、その無限の愛のしるしであるみ心をたたえるものとして中世に始まりました。

特に聖マルガリタ・マリア・アラコック（1647-90）がみ心の信心についての啓示を受けて17世紀にフランスで広まりました。1675年6月16日、この聖女はご聖体を前にして、イエスの愛にこたえたいという思いに駆られました。そのときイエスは、愛情に燃えているみ心を示して、人々の間に存在する冷淡な心を嘆

かれ、イエス自身の愛に倣ってその心を尊ぶことを勧められました。

またこのようなイエスの出現が数回にも及び、ご聖体の祝日（キリストの聖体）後の金曜日をみ心を礼拝する特別な祝日として定めるようにとのお告げにより、み心の信心の内容と形式が明確にされるようになりました。

そして1856年に教皇ピオ9世によってイエスのみ心の祭日のご聖体の祝日後の金曜日に全世界で祝うことが定められました。ご聖体とみ心の主日がおおよそ6月に祝われるというこのような歴史からして、次第に6月が「イエスのみ心の月」と自然に浸透し、制定されてきたことは十分に考えられます。

.....

6月12日（金）塩山カトリック教会（イエスのみ心ころ）10:30 ~ミサ

※ 塩山カトリック教会は、イエスのみ心ころの教会です。



おしらせ



1 せいしょうねんいくせいいいんかい 青少年育成委員会

今年の6月7日のキリストの聖体の主日に、初聖体をうけるために1名の子どもさんが準備をしております。

どうぞ、大きな喜びのうちに初聖体の恵みに与ることができますようお祈りください。当日は、ミサの後、サンタルチア講堂で、お祝いの会を催します。信徒の皆様も、是非、ご参加ください。

2 せい しとぎ けんきん 聖ペトロ使徒座への献金

6月28日（日）聖ペトロ使徒座への献金（聖ペトロ聖パウロ使徒の祭日または直前の日曜日）教皇は毎年、世界各地を訪問します。そして、人々の苦しみや悩みを聞き、優しい笑顔で力づけ、数々の援助を与えます。キリストの代理人、教会の最高牧者である教皇は、祈りと具体的な援助を通して全世界の人々にいつも寄り添っているのです。

3 じょせいかい 女性会

☆茶話会のお知らせ☆

普段なかなかお話しをする機会が少ないこともあり、今回、茶話会を行うことになりました。どなたでもお気軽にご参加いただけます。お茶を飲みながら楽しいおしゃべりをしませんか。 6月5日(金)9時30分 初金ミサ ミサ後10時30分～ センター1F

4 ほちかんりいいんかい 墓地管理委員会

墓地の共同清掃について 作業開始時間は、夏の時期に猛暑が続くため体調を考えて、午前中の7時30分からになります。朝とはいえ暑くなると思われれますので、参加は体調をみて無理をしないようお願いいたします。天候により延期の可能性もあります。

7月25日（土）7：30～9：30 ぐらいの予定 *雨天の場合8月1日（土）同時刻
問い合わせ 木村 090-8031-9608 宮澤 090-1808-9718

5 ちいきふくしいんかい 地域福祉委員会

四旬節 愛の献金 2026年2月18日 ～ 4月2日 甲府教会¥66,500
塩山教会 11,550 合計¥78,050 をカリタスジャパンに送金いたしました。

6 きょうかいじむきょく 教会事務局

① 教会委員会議事録をご覧ください

センター入口に直近の教会委員会の議事録を閉じたバインダーを置きました。
必要な方は1部ずつお取りいただきご覧ください。

② 講堂の放送設備の利用方法

ワイヤレスマイク、マイクスタンド等の放送設備を使用する際は、次の方のいずれかに連絡してから使用してください。紛失や盗難防止のためにご協力をお願いします。
教会委員会委員長、教会委員会副委員長、事務局長、放送設備担当（大木誠さん）

③ ブロック長が交替しました。

南ブロックが田村照夫様からイ・ソノヨブ様に、峡南ブロックが塚田道子様から和田諭様に交替しました。

7 まじかい 交わりの会

6月14日（日）11：30～ こうどうかいさい サンタルチア講堂で開催します。

かくいいんかい にってい 各委員会の日程

<small>じょせいかい</small> 女性会	お休み			
<small>きすなのかい</small> きすなの会	お休み			
<small>てんれいいいんかい</small> 典礼委員会	6月20日（土）	9：30	～	センターホール
<small>ちいきふくしいんかい</small> 地域福祉委員会	6月21日（日）	11：45	～	サンタルチア講堂
<small>こうほういいんかい</small> 広報委員会	6月28日（日）	9：45	～	センター事務所

三位一体とはどういう意味ですか？

三位一体の教義は、イエスとイエスが父と呼んだ神、そして聖霊との関係を新約聖書をもとに理解しようとした教えです。

神は唯一ですが、古来から三つの位格（ペルソナ）として存在すると理解されてきました。

1. 父（全知全能の神）
2. 子（イエス・キリスト）
3. 聖霊

唯一の神に三つの位格があるという事実は「神秘」ですから、神が三位一体であるという事実を、人間が自らの理性と知識によって導き出すことはできません。

ですが、次のようにイエスが語ることばによって、神が三位一体であることを知ることができます。

- ・子であるイエスが天の父について語っています。

「わたしと父とは一つである」（ヨハネによる福音書 10章30節）

- ・イエスは父に祈り、父と子の愛である聖霊をわたしたちに送ります。（カトリック中央協議会Hpより）



今月の教会カレンダー（典礼暦・外国語ミサ・行事等）



6月 5日（金）	はつきん 初金	9：30	ミサ
6月 7日（日）	キリストの ^{せいだい} 聖体 (はつきん) (初聖体)	10：30	ミサ
		14：00	えいご 英語ミサ（English）
6月14日（日）	ねんかんだい ^{しゅじつ} 年間第11主日	10：30	ミサ
6月21日（日）	ねんかんだい ^{しゅじつ} 年間第12主日	10：30	ミサ
		12：30	かんこくご 韓国語ミサ（한국어）
		15：00	スペイン語ミサ（español）
6月28日（日）	ねんかんだい ^{しゅじつ} 年間第13主日 聖ペトロ使徒座への (献金)	10：30	ミサ
		16：00	ベトナム語 ^こ ミサ（tiếng Việt）
7月 3日（金）	はつきん 初金	9：30	ミサ
7月 5日（日）	ねんかんだい ^{しゅじつ} 年間第14主日	10：30	ミサ
		14：00	えいご 英語ミサ（English）

みこころの^{しんじん}信心

教皇ベネディクト十六世は、イエズス会のコルヴェンバッハ総長宛に、み心の信心を勧めたピオ十二世回勅『ハウリエティス・アクアス』（1956年5月15日）発布50周年を記念する書簡（2006年5月15日付。発表は5月23日）を送り、こう述べています。

「槍で刺し貫かれたイエスの脇腹（ヨハネ19・34参照）を礼拝しながら観想することにより、わたしたちは、人びとを救おうとする神のみ旨を感じることができるようになります。……『槍で刺し貫かれた脇腹』の内に神の限りない救いのみ旨が輝いています。ですから、この脇腹を仰ぎ見ること（み心の信心）を、過去の礼拝ないし信心の形と考えてはなりません。刺し貫かれた心という象徴に歴史的な信心の表現を見いだした神の愛の礼拝は、神との生きた関係にとって不可欠なものであり続けます。み心の信心は、教会において基礎となるものであり、キリスト教の中心といえるものでありますから、イエスのみ心の限りない愛に対して、できる限りの愛をもってこたえろというみ心の信心の目的をしっかりともちながら特にこの月を過ごしていきたいものです。（カトリック中央協議会Hpより）